

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



～訪問時のひとこま～

訪問すると畑から戻り「たくさんキュウリがとれたよお」「今日のおかずの一品になりますね～」ヘルパーさんと笑顔でお話されています。

野菜作りをするために、体力を落とさないように通所リハビリにも通っています。「これからは暑くなるから、畑には早朝と夕方に一時間ほどにしているよ。」毎日畑に行って汗を流した野菜の味は格別です。ヘルパーさんと談笑している姿にほっこりとするケアマネでした。



ケアマネージャー 府野 陽子

令和6年度 通常総会（5/29）開催されました

令和6年度の通常総会は、5月29日（水）午後6時半から、えびすやフードセンター2階で行われました。新型コロナの流行があったので、対面で行ったのは5年ぶりになります。

総会は、正会員数38名の内、18名が出席し、委任状提出が8名でした。令和5年度事業活動・決算、令和6年度事業活動計画・予算が承認されました。



また、10年永続勤務表彰があり、以下3名の職員が表彰されました。それに引き続き懇親会が行われました。

10年永続勤務表彰



左から齋藤、菅野、伊藤理事長

齋藤 典子（ヘルパー）

理事の方々や立ち上げに関わってくださった方と事務所作りから10周年・・・昨日のようによみがえります。

利用者様をはじめ、すべての方に感謝です。表彰までしていただき、ありがとうございます。

菅野 三三子（ヘルパー）

1日1日を、ただただ無我夢中で勤めた10年でした。

これからの10年は、歯止めのかからない人口減少、働き手不足問題と向き合い、我が身も大切にして頑張ります。

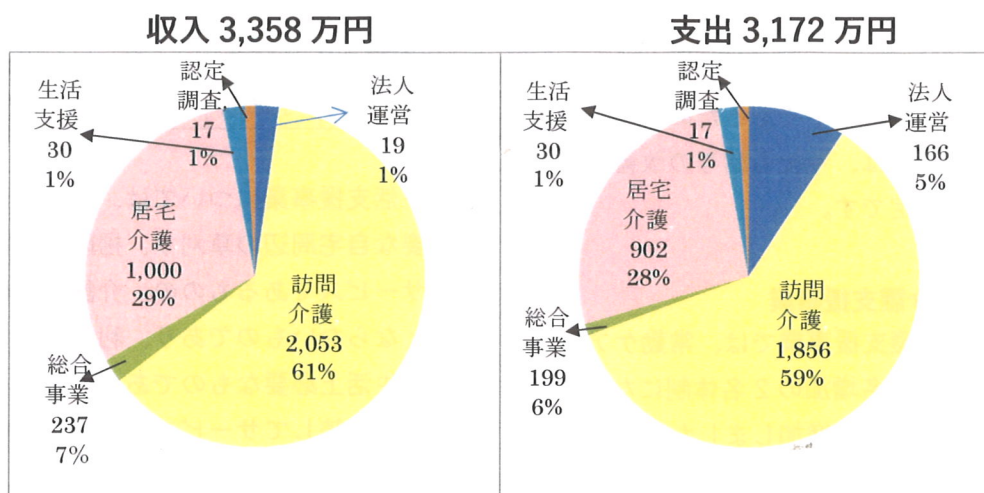
高石 和枝 （ヘルパー）



事務所のヘルパーさんや、職員の方に助けられながら、10年続けてこれました。

これからも、利用者さんに寄り添って、頑張ります。

I 令和5年度 決算状況



税引前 当期財産増 186 万円 (税引後 179 万円)

II 令和5年度 活動の概要

1. 経常損益の状況

令和5年度は、訪問介護事業が前年比345万円増加の2,290万円、居宅介護支援事業も前年比97万円増加の1,000万円の増収となりました。

収益事業では、生活支援事業は30万円、認定調査は17万円と大幅な減収となりました。

なお、物価高騰対策事業補助金40万円が交付されたため、増益の一因となりました。

以上の結果、法人全体では税引前当期利益は186万円となりました。

(単位:万円)

経常収益	R4 年度	R5 年度	増減
法人管理	20	19	△1
訪問介護	1,944	2,290	345
居宅支援	903	1,000	97
収益事業	85	48	△37
計	2,953	3,358	405

2. 法人運営事業

正会員は、新規加入者と賛助会員からの異動者があり38名(5名増加)になりました。賛助会員は正会員への異動、死や転居による減少があり、53名(6名減少)となりました。

3. 訪問介護事業

総合事業を含めた訪問介護事業では、全体の平均利用者が減少したのに対して、総利用回数が増加したことにより増収増益となりました。

これは、毎日午前午後サービスを利用をされた方が、1年間を通じて複数おられたことが大きな要因です。

(単位:回)

	R4 年度	R5 年度	増減
平均利用者数	39 人	37 人	△2 人
総利用回数	5,727	6,849	1,122

その結果、毎日の日程編成が効率的

になり、収支面においても利益体質になりました。

但し、ヘルパーの処遇改善についてはまだまだ改善途中であるため、利益相当分については、今後も給与の改善に充てていく予定です。

4. 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業では、常勤ケアマネジャーが1名増加の2名体制になったことで、稼働率が増加しました。

年間の延べ利用者数と、各年度末の契約者及び利用者数は以下のとおり、いずれも増加しました。

(単位:人)

	R4年度	R5年度	増減
延べ利用者数	741	787	46
契約者数	70	77	7
内利用者数	60	68	8

居宅介護支援事業においても利益体質になってきましたが、ケアマネジャーについては処遇改善加算制度はないため、独自財源で処遇改善を実施する必要があります。

令和5年度においては、令和4年度より多くの処遇改善を実施しましたが、ヘルパーの処遇より遅れているため、令和6年度以降において改善に努めていく予定です。

5. 収益事業

令和5年度においては、生活支援事業は、大口の除草や草刈りの利用者が減少したことと、主力として活動していた方の引退により、実利用者及び利用回数も減少しました。

生活支援の利用者数と利用回数

	R4年度	R5年度	増減
実利用者	33人	28人	△5人
利用回数	108回	73回	△35回

生活支援事業については、日常生活上必要な自宅周辺の草刈り、掃除、買物他のサービスであるものの、介護保険の対象とならないものであり、利用者にとっては生活上必要なものであることから、今後も継続してサービスを提供していかねばなりません。

また、利用者の要望も、短時間で終わるような要望であったり、サービス内容も多様化しており、有償ボランティアの確保も重要になっています。

つぎに、居宅介護支援事業のうち、認定自治体からの委託事業である認定調査は、例年と同程度の49件となっており、今後も委託に応じて実施していく予定です。

なお、いずれの事業も経常費用を賄えない状況になっています。

令和5年度では、結果として405万円の増収と186万円の税引前当期正味財産増額となりましたが、職員(特にケアマネジャー)の処遇改善が必須であり、令和6年度の大きな課題になっています。





みんなの広場



オレンジカフェ オープン!

こんにちは。くらしと介護のサポート‘道しるべ’です。

今回は、毎月店内で開催している「オレンジカフェ」をご紹介します。

まず「オレンジカフェ」とは、認知症の方やそのご家族、介護者、地域の方々が気軽に集まり、交流や情報交換を行う場所です。コーヒーやお茶、おやつなどを楽しみながら、リラックスした雰囲気の中でお話したり、認知症に関する相談をすることができます。また、地域包括支援センターの方



アイスクリームには、誤えん防止の
とろみコーヒーが・・・

にも来ていただき、いろいろなお話しもしていただいています。地域の方々が、認知症について理解を深める場ともなっています。

毎月第3土曜日 10時から。参加費は100円です。お気軽にご参加ください。お待ちしております。

会報 30号!



会報1号は2014年10月に発行されました。その後、定期的に行う発行を続けて10年目の今回、30号を迎えることができました。これ

〈店長 会員 阿曾 ルミ〉

も会報をご覧下さる方がいることが大きな支えとなっています。また、声やメッセージを寄せて下さっていることに感謝申し上げます。

編集で一番大切にしているのは、表紙の写真は何にするか、そこに込められた思いをどう表現するかです。また、当法人の活動の現状をわかりやすく伝えるよう心がけています。

〈広報委員会〉



<安心して住み続けられるまち リレートーク その21>



<留石公園ものがたり>

飯野町には桜の名所は数多くありますが、一番の穴場がここ留石公園です。以前はモアイ石(人面石)で知られていましたが、今は桜とハナモモの桃源郷です。ここ大久保の南の小山の頂上は、見晴らしがよく巨石があり古くは重要な地点だったようです。絹産業が盛んになってからは、持ち主の高橋 昭恵(しょうえ、88歳)さんが桑畑に変え、公民館に勤める傍ら奥様と草刈りなどに励んできました。55年ほど前、ご自分で整地した頂上部分に桜の木を植えたのは、斜面にあるご自宅の前の道路脇に植えたのがきっかけでした。一旦心を決めると、誰が何と言おうと志をまげない昭恵さんは、一人黙々と整備を続けました。旧道入り口の伊藤徳之助氏から苗木の提供もあり、市町村合併時にはすっかり公園状態になっていました。その時



の補助金をもとに椿沢町内会の皆さんが協力して、(急で狭いアプローチ以外は)素晴らしい公園を完成させたのです。

その後コスモス、あじさい、ハナモモ・・・と様々な花木が植えられ現在に至っています。現代の‘はなさかじいさん’こと昭恵さんは闘病中につき、奥様のサトさんにお話を伺いました。

高橋 昭恵さん サトさん
聞き手：編集部



NPO やすらぎの郷いの

福島市飯野町字前川16

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

一口一言

総会では、この地域での少子化などによる急激な人口減少と地域の産業の働き手不足のことが話題となった。特に介護の必要な担い手が今後確保できるのであろうか。デジタル化で解決できるのか? (K)